

# 水源禅師法話集 31

(2014年9月23日 東京法話会)

2015年9月1日

## 一乗会



水源禅師がクティから撮影された満月  
(日本時間 2014年7月12日撮影)

## 目次

---

水源禅師法話	1
瞑想の実践法	1
いつも心の眼で観る	1
すばらしい動物たち	3
達磨大師と靈光和尚（慧可大師）	3
教学仏教はやめなさい	6
いつでも自分の心を観る	7
因縁—ユダヤ教の奥義はダンマヌパサナーのサンカーラー—	8
因縁—偉大なヨギと達磨大師—	9
質疑応答	11
瞑想中に観えた—お坊様、いろいろな顔、まぶしい光—	11
常識・時空を超える仏教	13
スズメからのメッセージ	15
名号を称えながら人に尽くす	16
自分を生かす、そして人も生かす	17
人を生かすと、自分も生きてくる	19
生駒山という聖地	20
法を持つことで、クモの糸が消えていく	22
自分に合った瞑想を続ける	23
色の好き嫌い	24
体験者だけが分かる	25
パウオンに位置する生駒のお寺	26
三十四善心	28
印の組み方	28
チャクラ	29
夢の世界	30

## 水源禪師法話

---

### 瞑想の実践法

---

北伝ではまず基礎をしっかり作ります、これから自然体に入る呼吸法に入ります。お腹を一杯に膨らまして、お尻の肛門をキュッと締めて「一、二、三、四、五」と数えます。この方式で5回します。その数の時間は、あなたの状態によって、苦しくなく楽な数え方で、閉めることができる時間ですね、あなたの状態によります。それが終わったら、今度は舌を前歯の上にくっつける。これによってお腹がキュッと閉まり、胃腸が上がりますから、眠気があまり出ないということです。正式には、鼻から吸って、ふっと口を軽く少し開けて、そこから息を出すのですが、それが難しいと思うときは、鼻から吸って鼻から出して、けっこうです。それをすべて自然体の自分のリズムでやる。

海の波があるでしょ！海の波というのは、必ず規則正しくなっていない訳なのです。グーと上がる時もあれば、途中半端でグーと上がって下がると。それをね、風車みたいに車みたいにクルクル、これはダメなのです。上がったときに、ちょっと間をおくでしょ！というのは海を見てください、波を。絶対に車輪のように機械的じゃない。上がって、下がって、下がって、また上がるときに、波は機械的じゃないのです！その間がね、長くなるか、短くなるか、それすべて自然体。風みたい、自分が風みたいになってしまう。そうしたら、非常に体が楽で、そのリズムでできていく。

それをね、無理しないで10分、15分、30分と伸ばしていく。無理はダメです。無理したら必ずやめますから。無理はしないで、朝起きるときか、眠るとき、自分の枕の上に座って、疲れたらずっとそのまま寝てしまう。寝ながらするときは枕を外して、すべて自然体で、目を少し空けて、手をお腹に当てることを普通やりますけど、これはお腹にプレッシャーがかかって、うまくいきません。だから、手を広げるのですが、そのうちにコロッと寝てしまう。そこが問題。1時間やろうと思っても、大体15分でコロッと寝てしまいます。まあ、それはそれでいいのだけれど。

南伝のアナパナサティ（入出息念）の場合は、鼻から空気が入る、出る。空気の入りを観ていきます。それだけで、そのうちに「タッチングポイント」といって、鼻の下と上唇の間に、かゆくなったり、光が出始めます。これが北伝と南伝の正式な呼吸法です。

### いつも心の眼で観る

---

昨日はアーチャン・チャーとボディダルマ（達磨大師）様の話。約1500年前、インドから伝わってきた北伝の瞑想のお釈迦様の二十八代目の法主ですね。どういうふうにしてインドから中国に来たか、ちょっとした最初をお話しました。それから、アーチャン・チャーが一体、何をどういう手法で瞑想を教えているか、ということ、事例を取りながら教えまし

たけれど、どちらも全く違いありませんね。つまり、お釈迦様のことを、神髄を教えているもので、目指すところ、核心のところは、北伝の禅であれ、南伝の瞑想法であっても少しも違わない、という例をもって説明しました。そういっても、今日、初めての方もありますので、ちょっとまた説明します。

結局、アーチャン・チャーは、瞑想というのはただ座って、仏像のように動かないで、じっと座るということではないと。また、立ったり、歩行禅とか、そういうことでもない。瞑想というのは、まず心をいつも敏感にして、心の目というか、いつも敏感にして何か起きているか、ということ、自分の心の中を観る。それが座っていようと、立っていようと、それは全く関係ないことであると。それによって悟りの世界に入りますと。ところが、皆さんは座る！座る！ たしかに、座ればニミッタ（禅相、丹光）も出るし、ブッタゴーサの教科もどんどん進みますけれど、まずこの基本を忘れて、それをやろうとしても、やっぱり数学には微積分やれば、よく分かりますけれど、段階を外したら次に進めません。結局、仏教の瞑想も全く一緒に、段階を外したら、そこで突っかかってほとんどおしまい、ギブアップか、いつの日にかまた法に出会うか！ ということです。

まあ、日本文でもあるのでしょうけれど、私は英文の方がよく分かるので、結局、北伝でも南伝でも、いかにして法をつかむか、ということなのです。その法というのは、これはゴエンカさんも言っているけれども、目の不自由な方がゾウをいかにして、目の不自由な人が他の目の不自由な人に伝えるか、という有名な話をしていますけれど、アーチャン・チャーはまた別のことで、アーチャン・チャーの場合は色ですね。目の不自由な方が、他の目の不自由な方に、この色はどうであるかと、いかにして説明するかと。法というものは、ちょうどこの色みたいなもので、目を開ければ、色が分かりますけれど、目が開かない限り、説明できません。自分で目を開けた場合には観えるけれど、目の不自由な方にまた、この色を説明しようとしても伝わりません。この伝えようとする人に、目をいかに開けさせるかということであって、そうしたら一瞬にして白ということが分かります。白でもきれいな白と、ちょっと薄暗い白、それは心の目によって、そういうふうに観えるのであって、一人一人、違います。だから、色も自分で確かめるしかない。これが法を得ることであると。

だから、いつも自分で自分の心の眼で観てください！ 心の眼で観るということは、昨日、説明したように、クモが巣を作って、いつも餌を取るように、中でジューとして、一瞬たりとも寝ないでそこにおります。それを「覚醒」と言いますね。その夢から覚めるというか、眠りから覚めるということ「覚」と言います。正覚の覚。心眼ということ。心の眼。それを何か第三の目とか、ダーと本で書いて！ そうではないです。ということアーチャン・チャー、現代のアラハト（阿羅漢）という方が言い残していく。死んでいきましたけれど、北伝も一緒です。全くそのとおり、一つも違わない。ただ、そこに到達する手法が、北伝と南伝があったわけなのです。これは歴史的なダルマ（法）で行くか、戒律で行くかという、お釈迦様の時代の大論争から今まで続いているのですが、まあこのへんで手を打って、そういうことは、どうでもよいのではないか！ というのが私の持論なのです。そのために、お釈迦様は森に入って一人で暮らしたのです。

## すばらしい動物たち

---

そのときに、お猿さんとか象さんとか、果物を持ってきてくれたのです。そういうふうに動物でさえするのに、人間は論争に明け暮れて、そういう動物の方が、お釈迦様に奉仕してくれるということ。これ嘘ではなく、私も昨日お話ししたでしょ、大きな亀さんと私がお話ししたと、浦島太郎みたいに、卵を守るために。昼間は、亀さんというのはすごい力を持ってですね。普通、姿を現さないのですよ。どうしても自分の子どもを見るために、卵を見るために雨を降らすわけですね。サーと！ そうすれば人間が出てこないからね。亀さんが悠然と上がって、小さい池が小川じゃないけれど、激しく流れるわけ。それをズーと上がってきて、自分の卵が大丈夫かとかね。夜な夜な上がってきて、亀さんはこんなに大きかったですね（50センチ）、ウミガメみたい。そうしたら、ちょうど岸に草があるのだけど、枯れた草が全部なくなって、ちょうど道ができています。「あー来て見ているのだな」と。私が五つの棒を建てて、私が間違えて踏まないようにね！ そうしたら亀さんがもう一つ建てて、きれいな棒をまっすぐに建てて、ここまでは私のところですからお願いします、というわけ。

昨日もお話ししたように、カナディアンギース（カナダガン、カナダガモ）の大群もちゃんと統一して。その統一されるリーダーは、なんと美しい品のある女性のリーダーなのです。だから、動物の世界は男、女ないわけです。いかに自分の大群を引き連れて生命を守っていくかと。すべて知っているわけです。どこに餌があるか、どういうふうに若いヒナ鳥を育てていくか、つまり、青年鳥の規律とか、全部教えていく。そして、南へダツと帰っていく！ というふうに、そういう生命体の方が、命をとっても大切に集団で生きているわけです。今、私たち老人社会とか変なことばかりやって！ 介護何とかで、何をやっているか分からないことばかりやっていますけれどね！ 集団で仲良く暮らせば、こんな機械的な規律、規律ではなく、一人のすばらしいリーダーを持てば、集団が悠然と生きていくわけなのですね。

## 達磨大師と靈光和尚（慧可大師）

---

まあ、そういうふうに、仏法もまさにそのとおりで、悪、善ね。これは善い、これは悪いと。アーチャン・チャーはこう言っているわけです。ナイフがあるでしょ！ 切れるところ。切れないところ。それから持つところ。これは一体化していると。切れるところを悪いと言うか、切れないところを善いと言うか、持つところは使いものにならないと！ でも、これ三つが一体化しているわけです。もう一歩進めれば、アーチャン・チャーが言うには、このナイフが、何でも使うことではないと。ナイフというのは心のナイフ。つまり、無駄なことを切り裂いて、法を受け取る！ 法のフルーツを受け取る。果物ね！ この世で最高の食べ物を受け取る。その最高の食べ物を食べて、今度は自分が種を育てて、この果物を皆さんに分け与えると。つまり一緒なわけなのです。菩薩行というか、人のため。これしかないわけなのですね。このようにして大宇宙はできているわけなのです。南伝の方は大宇宙の仏のことをあんまり言いませんけれど、恒河沙のように、つまりガンジスの砂のように、実際に、この全宇宙に散らばっています。その生命体、全く違う次元によって私たちは生かされているわ

けです。というのは、この私たちが生きている、この世の中は、私たちが自分勝手に決められるようにはできていません。

結局、ボディダルマが今から 1500 年前に中国に来たときに、中国の文献では「大体 40 年いた」と。普通『降臨伝』では 30 年。120 歳のときに中国に渡って、全然相手にされなかったわけなのですね。それで、北の少林寺に上がって、そこで 9 年間、坐ったのですけども。その前に二人の弟子を送っているわけです。その前に南伝のティピタカ（三蔵）、今、日本では南伝、南伝ということに目覚めていますけども、もうその時代に南伝のものは大流行りで、やっていることは経典の解説、それから暗誦すること。これはね、表面だけであって、それはただ果物を見ているだけなのですよ。

それで、ボディダルマがどうして西から中国に来たかという公案がありますけど、このことなのです。来て、本当のお釈迦様の心を植え付ける法を持たせると。そして、中国に来たときに結局、武帝はおごりが高くて、ボディダルマが 6 回、毒殺されそうになったのは、この本によればですね、私は知りませんが、6 回、毒殺されましたけれど、すべて死なないで生きていたと。ただ、そのときにボディルーシーという方が、やっぱり強敵が現れたということで、食べ物に毒を盛った、ということなのですね。結局ね、ルーシーというのは、また不思議なことで、ルシファーになるわけ、英語では。ルシファーというのは悪魔なのです(笑)。なぜ、ボディルーシーになるか？これがまた不可思議なことで、言葉自体ね。ボディダルマがそういうふうに苦労して、また自分の弟子たちも死んでいるわけです。

でも、この二人の弟子が皆から相手にされないで、北の方に行ったときに、あるお坊さんが、これは偉いお坊さんだということで、たったこれ（手のひらを開いてみせる）、非常にすばらしい公案で、こう手を出すでしょ！この瞬間にこのお坊さんが悟りを開いた。法を植え付けていったわけです。だから、手をこう、これは何かという公案があるのです。観て一瞬に分かったわけです。そういう地ならしの種を植えたわけですね。

そして、ボディダルマが武帝から相手にされないで、一人でてくてくと上がっていったら、靈光というすばらしいお坊さんがいて、この人が法を説けば、天から花が降ってきて。大地から黄金の蓮がサッと出てくると。それで、ボディダルマがそこに行って、あなたが言っている法は何の意味を指して、何を言っているのか分かりますか！？と。そうしたら、私は天界から花でも出す、すばらしい人になんと無礼なことを言うか！と。それで、その靈光さんが解説するわけ、タタタと。そうじゃない！と。この書いている行間のことを私、あなたに聞いているのだと。回答に詰まってしまいました。書いていることではなく、不立文字の書かれてないことをあなたが言ってみなさい！と言ったのですね。それで回答に困ったわけ。というのは、自分で法をつかんだときに、字の行間の間の法を説けるのです。本当の法を説けるわけなのです。さっき言ったように、目の不自由な方が目の不自由な人にどうして色を伝えられるの！？と。達磨さんが聞いたのです。だから、結局アーチャン・チャー様が言っていることと、ボディダルマ様が言っていることは同じことを言っているのです。だから、私は「南伝も北伝もない」と言うのです。

それで、彼はそれに回答できないで怒り狂ったわけ。それで、こういう数珠がありますけど、普通はまあ、打てばすぐこれは壊れるのです。人を殺めないために。もっと軽いやつ。

この靈光和尚さんの数珠は鉄でできていて、それで、これでボディダルマ様の口をパーンと打ったわけですね、歯が二本パーンと取れた。この歯を二本、吐き出せば、この大地に三年間、雨が降らないと。雨が降らなければ、たくさんの人が死ぬと。では、私は中国に来て法を伝えて人の命を生かすために来たのに、これでは全く反することであるから、歯を二本、飲み込んだわけです。だから、中国の言葉に「アラハトの歯を二本、折る」という諺があるみたいです。ここに書いてある。実際に起こったみたいです。

そうしたら、すぐに閻魔大王の文官たちがスーと靈光のところに来て、あなた、地獄の宮殿に来て下さい！と。なぜですか？と。質問ありますと。あなたは、なぜボディダルマの歯を折ったのですか？と。(靈光和尚が) 実は、この人(ボディダルマ)は私にいろいろ解説しましたけれど、「行間」のことを言いなさい！と、あまりにも馬鹿にしているから、腹が立って、普通は腹が立たないのだけれども、逆上してやりましたと。(裁判官が) このボディダルマという方は生死を超えた方なのですよ。つまり、涅槃に行ける方だと。この世で生死を超えた方がおりますか？と、10人の裁判官に靈光和尚さんが聞きました。そうしたら、おります！と。(靈光和尚が) 私は法のために来て、法を説いて、法のためなら命を捧げる気持ちで修行してきました！と。そうしたら、生死を超えた方がこの世にあるわけないでしょう？と、靈光和尚さんが言ったのです。(裁判官が) いえ、生死を超えた方がおりますと。その方がボディダルマですと。(靈光和尚が) では、その生死を超えた法を受け取る時間を私に下さい！と言ったのです。そしたらこの10人の裁判官が、よし！その時間を与えましょうと言って、てくてくとボディダルマの後を追っていきました。

ボディダルマは全然、関係なく、ずーっと少林寺の洞窟で9年間、坐ったのだけれども、(靈光和尚は) その後ろに坐ったわけです。坐ったのではなく、膝・腿を立てた姿勢ですね。普通キリスト教ではね、拝むときはこうするのですよ。このポジションで、この方は9年間ずーっとそこで待っていたわけです。最後の9年目にボディダルマが、一体なぜお前はここに坐っているのか？と。もちろん歯を折られていたけれども、そういうことは一切、怒りとかそういうことではなく。実はあなたは生死を超えた方で、その法を知りたくて来ました！と。よし、じゃあここに私に「赤い雪」を見せてくれ！と。そうしたら私はお前に法を与えよう！と。いつもお坊さんは、いつでも死ぬるようにナイフ一つ持っているのです。だから、私の場合は、弟子がこの世で私は教えずに去ろうとしたときに、私の弟子が私にナイフを渡すのです。命を捧げますということ。まあ、弟子を取る気は一切なかったけれども、そこで受け取ったということは、法を弘めなければいけなくなった次第です。私には結局、そのナイフをいつでも持っています。髪は剃るし、いつでも死ぬるように。人を殺めるわけではないのです。

それで、靈光和尚さんは、そのナイフを取って、ボディダルマ様の前で、ぼーんと自分の左の腕を取って、血がどくどくと雪の上に流れるでしょ！ それを一つのバケツに入れて、ボディダルマさんに、はい、「赤い雪」を持ってきました！と。というふうなことで、法に遇えることは人間界では奇跡的なのです、今さっき「呼吸の仕方」、こういう法ですね。これくらい得難いことだったのですよ。今はただ私の口から聞ける時代であるのですけれども。というふうな、真髓は北伝のボディダルマと南伝のアーチャン・チャー様の言っていることは、

核心は一つも違ってない。法をいかにして体得するか！ということ。なぜ、南伝にそれがあつたかと言ったら、南伝の今から 2000 年以上前に、マヒンダ・アラハトという方がインドからスリランカに来て、20 年間、岩の上で生活していたのです。岩の上で、山の上で、ちょうど岩が橋みたい。その下で生活したのです。その系列をくんで、南伝の方はこういう方式でやっていますけれど。だから、北伝も南伝も一緒なわけなんです。

また、現代、私たちは文献を読んで、いろいろ解析してずーとやっているけれど、ちょうどボディダルマ様が中国に渡ったときはね、ちょうど暗誦するというか、文献を調べて討議する。全く今の現代のことが、その当時から続いているわけなのです。仏教とは経典を調べて勉強することだと思っているようですが、そうではないと！自分で体得することが仏法であり、それは自分の体を使ってでしか体得できない、ということをお教えたわけなのです。だから、ボディダルマが赤い雪を見せてくれ！と。持ってきました！バーンと腕を切ったわけですね。そのときは法を知りたくて、痛みも何も知らなかったわけなんです。

あなたが怪我したときは、痛みはないですよ！その 10 秒、20 秒後に気が付くくらいであつて、気が付いたときに、後で来るわけなんです。切ったから、突然ダーと痛くなったわけですね。もがき苦しむのだけれど、そのときに、ボディダルマがその痛みはどこから来るのかを見せてくれ！と言ったわけ。そうしたら、外に、内に、全部観たけれど、見つからなかったのですね。そのときにはもう痛みも消えていたのですね。それで「痛みはいかに！」と言ったときに気が付いたわけ。そのとき全部、痛みがないから。それで、自分で造り出していることが分かった。それで悟りを開いたわけなんです。そして、心心伝印と、心と心に判を押したわけなんです。

というふうには、法は伝わらないわけなんです。最初に自分の弟子たちが中国に行って、法を伝えようとしたけれど、ボディルーシーという人が邪魔をして、ティピタカとか暗誦して一切相手にされない。インドから中国に行ったときは、中国語が話せないものだから、ただ突っ立っているしかないから、法を伝えることができないと。でも、たった手をこうして開いて握ったときに、この偉いお坊さんは覚醒しました。その当時は仏の名前を唱える、朝から晩まで。一つの仏の名前。そのとき大流行りだったようです。つまり、仏の名前を呼ぶだけでも、聞くだけでも、何か心に振動が来て、一般の民衆はそれで救われるわけなんです。その和尚さんはいかにして人を救うかということで、仏の名前を暗誦させたわけなんです。

なんと、靈光という方の名前はその瞬間に、心心伝印したときに、ボディダルマから慧可という名前をもらったのです。「果物を受けた方」という意味で慧可なの。

## 教学仏教はやめなさい

---

私が最後に北京に行って、四つめのお釈迦様の牙の舍利を礼拝しました。四牙ですね。一つはスリランカのキャンディ、二つ目はポロンナルワ、三つ目は台湾の仏光山、最後が靈光寺なのです。同じ名前。慧可の元々の名前は靈光なのです。だから、永遠としてお釈迦様の法を守っていますよ！と。そのときに私がそこで瞑想したときに、龍の顔が観えるのです。龍が四つの牙を出してゴーンと開いているわけなんです。それで、瞑想を終わって、グルリと一



回りしたときに、あー龍神様を祀っているな！と見たら、口を空けた中に玉があるわけです。そして、そこで見つけたのが、『達摩多羅禅経』なのです。それで、発見したのが、達磨大師はニミッタ、不浄観、すべて教えていたわけです。それが、そのうちに途絶えて、六祖大師のときに直接「空を」を観せる手法をやったようですね。それで、悟りを開いた方が排出したわけなのです。だから、北伝と南伝は全く異質なものであるように言われていますけれど、実は一体化しているし、また南伝の雄のアーチャン・チャーの残した文献を見れば、まさに一つも違わないわけなのです。

昨日も言ったように、コップの汚い水を捨てなさい！と。そうでなければ、このコップは使い物になりません！と。そして、全部投げたときにこのコップは使えます！と。では、どういう水が飲めるのか？と。コップの中の水ということで、私たちはいつも頭の中にくるくるくると考える！これは「毒」だと！飲めない水です！と。まずそれをやめなさい！と。そして、考えないで心の奥底から湧きあがった水をこのコップに入れて飲んでください！と。だから、無我、空とか心を空にする！と。そうしたら、自然と湧きあがってくると。どちらも同じことを言っているわけです。

だから、ただただ坐っても意味ないというわけ。クモが網の目を張って、そこでじーと獲物をつかまえるみたいに、じーと観てください！一体、何が心の中で発生しているか。すべては自分の心の中にありますと。だから今、日本でも一生懸命、文献を読んで、そしてそこから理解しよう！と。1500年前にそれやっているわけなのですよ。つまり、お釈迦様が生まれてから1000年間、まだそこだったわけ。それで2500年間が経って、私たちはまだそれやっているわけ。大議論をやっているわけです。そうではなく、自分で眼を開けて、白か黒か！それしかない、と言っている。これが修行であり、また悟りの世界であると。自分しかない。誰からも教えてもらうことができない。

こういう仏教を教えている大先生が、はっきり「私はこうして論文書いているけれども、私自身もはてな？と思う。なぜかといったら、難しい仏教用語を並べて、本当に訳が分からなくなるし、本当に使いものにならないことを教えている気がします！」と。「博士号取った方がいっぱいいるけれども、本当に使えるかどうかは非常に疑問である」と、はっきり言っています。これが今の現状で、今は本を読めば、悟りを開けるようなことを言っているけれども、ボディダルマが1500年前に、はっきりこれは全くのデタラメだからやめなさい！と。つい最近のアーチャン・チャーが生きているアラハトと言われる方でもやめなさい！と。私たちは虎の巻きを見て回答して、あー分かった！これは全くお釈迦様がおっしゃった「痴」、おかしくなっていると。それなのです。

## いつでも自分の心を観る

---

私は今回、家を建てましたけれど、やはりちょっと、のこぎりの歯の当て方が悪かったら、おかしくなったら、この4、5千円の材料がダメになります(笑)！ちょっと目線を間違えて、線引きしてしまったら、これもダメ！柱1本、2、3万円するものをボンボンと目線を間違えてやったら、もうどれだけお金を使うか分かりません。これが木材ではなく、また配電か

ら水道管から下水管から道路をつくる、棟上げから全部、考えたらね、やっぱり間違いは許されない。つまり、自分で自分の家をつくるみたいに、やっぱり、それはツケが来るわけなのです。瞑想というのは、そこで、自分でしっかり自分をしっかりつくっていく！と。やっぱり、ちゃらんぽらんにやったら、莫大なお金を投げてしまうし！ また、人に頼んでつくってもらって、後でまたそれを直すために、またお金を使わなければいけない！と。破産ですよ、普通は。仏法というのは、破産させないために法を伝えている。いかにして楽に生かすか！と。

だから、最初にボディダルマから法を受け取った慧可さんは、ボディダルマという涅槃の世界を知っている方の歯を二本、折ったわけです。必ず地獄に墮ちる。そして、すぐに地獄の宮殿に呼ばれたわけです。私たちの住んでいる世界がおかしくなるということ。イエス・キリスト様が処刑された日は、地獄の大きな大岩がポーン！と落ちて、地獄自体が震え上がったというのだから。だから、昔から聖者には手を付けてはいけません！ということ。だから、宗教にとらわれずに、自分の心をいかに愛の世界に導いていくか！と。それには人を本当に「人のために尽くして生きていく！」と。なかなかこれができないです。でも、少しでもよいのです。それをやるには、ただ奉仕、奉仕もよいのですけれども、やっぱり、じーと坐って、クモさんが、クモの巣の真ん中において、じーといつでも自分の心を観るようにしていけば、自然と経典も読めるようになります。

## 因縁—ユダヤ教の奥義はダンマヌパサナーのサンカーラ—

今現在、世界で最大の問題は、イスラームにしる、ユダヤ教にしる、キリスト教にしる、仏教にしる、経典を読めないのですよ。つまり、数学の公式があって、それをもう一度レポートできるけれど、この意味が分からないわけです。なぜ私がこういうことを言うかと言うと、私の生徒にユダヤの方で、大学の先生が二人、来ています。そのシナゴグ（会堂）というのは瞑想道場であって、拝むところではないのです！と。今は誰も瞑想を教えてくれません！と。アブラハムにせよ、モーセにせよ、すべて瞑想したから、そのところが聖地になったのです！と。私は瞑想するところがどこにもないので、今ここに来ています！と。それで、私がこの数年間、教えて結果が出ているものだから、カソリックの方ね、イタリアの方、それも古代ギリシャから続く1万年の歴史を持つ方が私に、私たちはユダヤ教の奥伝を手に入らないから分からないのですよ！と。どうしても見せてくれないと。

ところが、私のユダヤ教の生徒が、経典を持ってきて見せてくれたわけ。私がそれを見てびっくりしてしまったのは！「God said Adam」（神がアダムにこう言った）、「Man is unique to know bad and good, ever live」（人間は特別に善、不善を知る、これより永遠に生きよ！）。これはね、神がアダムをパラダイスから追放するときです、それでも愛があるから、最後の言葉をこういうふうに与えたわけなのです。「人間は善悪を知る生き物である！」と。「永遠に生きなければいけない！」。このセンテンスは、ユダヤ教は持っていますが、イスラームにはないです。キリスト教の全経典にもないです。また、あってもこの意味を知ることができないわけです。三十四善心、それから不善心、十八不善心、二十一不善心、二十不善心。

サンカーラ（行、形成作用）のことなのです。これはダンマヌパサナー（法随観）だけが持っている手法で、お釈迦様の直伝なのです。これは自分の過去を観て、未来を観て、初めて分かる教科であって、これを通過する人は、他の手法ではまずいないわけです、この今のこの世でも、明快に。これを「因縁」と言います。

## 因縁—偉大なヨギと達磨大師—

だから、さっき言ったように、私はお釈迦様の仏歯舍利のお寺の名前が靈光寺。全く知りませんでした。慧可の名前は靈光ということで。因縁というのは、こういうことなのです。武帝はなぜあれだけ一生懸命お坊さんに供養して次の世に栄華を持っていきたいと思ったか。奉仕すれば、ものすごく善いことがあるということは分かっているわけです。前世はお坊さんだった。お坊さんであって、そこで食べ物を育てながら修行していたのです。ところが、お猿さんが来て、それを食べちゃうのです。でも、お坊さんだから、お猿さんを殺すわけにはいかないのです。それで、お猿さんを捕まえて、2、3日ということで、穴に閉じ込めたのです。ところが、忘れてしまって、お猿さんが死んでしまった。そして、この武帝が栄華を極めているときに、このお猿さんが今度は人間のすごい將軍になって攻めてきて殺したのです。ただ殺さないのです。食料を一切、与えずに、宮殿に閉じ込めたのです。それで餓死しました。これを「因縁」と言います。

まあ、だから、軽々しくもこれが因縁だ、というわけじゃなく。また、あるお坊さんは、お寺を直すときに、ちょうどトカゲがいたのですが、トカゲが入っているのを分からずに、そこを閉めてしまった。1週間後に気が付いて出しました。まだ生きていた。ところが、この方はいつの世でも1週間、穴に閉じ込められる運命。本当の話。これはね、お坊さんではなく、インドの偉大なヨギがそう言っております。すばらしいヨギになれば、自分の過去が観えるのです。なぜか穴にバーンと閉じ込められたと。

なぜこの話を言うかと言うと、このヨギは105歳か110歳だったか、イギリスのインド植民地支配のインド人地方官で、もう死ぬのが分かっているのです。でも、すごく強烈な力を持っているから、死体が流れてくるのが分かる、若い死体が。その死体がどこに着くかということで、もう一人のヨギと一緒にそこに行ったわけなのです。行くときに洞窟に泊まった。そうしたら、象さんが洞窟の前で死んで出られなくなった、1週間。なんとか出て、死体が岸に着くところを他のヨギが手伝って、その死体に、この方の色心で入っていったのです。だから、この若い体になって、今度は同じように電柱みたいに歩く、ダダダダと。ところが、今度は大問題が起こった。死んで川に流した家族が生き返ったという裁判沙汰になって、いやいや、私はこの体に入っただけです。いやお前この家に来て住みなさい！と。裁判沙汰にまでなった。実際の話ですよ。

ボデイダルマもインドから入ってくるときはマドラスの第三王子だから、非常にきれいな顔をしているのですが。王様で美女ばかりの宮廷でしょ。なぜ、あんなにごっつい恐ろしい顔をしているかと言ったら、あるとき、旅をしているときね、村人がその森に入っていないのです。その森に入ったら誰もが出てこないからです。そして、ボデイダルマが見た

ら、大きな大蛇が死んでいると。大蛇の中に入って行って、そうして川に落として出てきたら、自分の体がないわけです。あった体はごっついヒゲをはやしたこれしかないから、それに入ったのです。ヨギのそれは嘘でしょ！と。でも、約 60 年前のインド独立前の話ですよ。インドの高官というかな、地方高官が自分の体が衰えるから、死体の中に自分を入れて、その体を使った！と。ということを書いた人が 1980 年代に死にました。偉大なヨギです。アメリカでも相当もてはやされて、大学まで創った方です。これを「因縁」と言うわけです。

## 質疑応答

---

### 瞑想中に観えた—お坊様、いろいろな顔、まぶしい光—

---

#### 【参加者】

ゴエンカさんのところで、10日間のコースで、バンガー（壊滅）を経験したのですが、先生の法話を読んで「あれって何だったのか?」、先生は体験されているということなので、「あれは何だったのか?」ということ。バンガーを体験したのが5日目くらいだったのです。最後かな、きれいなお坊さんが現れて、すごい、パカーンという感じで、涙が止まらなくなっちゃって、消えるのですが、またパカーンと出てきて、それが半日くらい続くのですが、それがすごい気持ちよくて、全然悲しいとかではなくて、ただ甘露の雨という感じで、涙が止まらなくて!「皆、大丈夫?」と言われたが、「気持ちよくて!」という、「これは何だったのかな?」ということ。

ゴエンカさんのところの縁で、自分は家で瞑想とかしていて、最初は過去世とか、分からないので、知らないで信じていなかったのですが、水源禅師の法話とか見ていると「正直、否定する理由はないなあ」という感じがしてきて、瞑想中に出てくる現象というのも、ただ観ているのかと思っていたら、デスマスクみたいなものがいっぱい出てきたりとか、あの、皆、目を閉じた顔がいっぱい出てきたり、一時期、頻繁にあって「これは何だったのかなあ?」とか。

#### 【水源師】

それはあなたの過去の自分の顔です。

#### 【参加者】

皆、目を開いていなくて閉じていて、バーとあって「何なのかな?」と。あんまり興味を示さないように努めていたのですが、やはりそういうことを理解されている方に会う機会があったら聞いてみたいと思っていて。最後に、瞑想を始めた頃からすぐなのですが、ニミッタ（禅相、丹光）かどうかは置いておいて、まぶしいくらいの光がズーと出ていて（【水源師】それはニミッタですよ）、一般的に長い時間、続けていたら白い点が出てきたりとか、僕の場合、2時間とか坐れる方ではなかったですし、15分くらいしたら、もちろん光源がないところで、なんて言うか、上から落ちてきたりとか（【水源師】そう、いろんな現象が起こります）。先ほど瞑想の前から、北伝と南伝では出方が違うというお話のときに、確かに僕もそれがあって、上からくるときもあったりとか、パチパチパチパチとか光っているときもあったりとか、正直、調べても、誰もそういうふうには書かれていない（【水源師】だって、体験していないから書けません）。さっき「北伝、南伝、違う」ということをお聞きして、ちょっとびっくりして「あれ何だったのかなあ?ニミッタだったのかな」と。

### 【水源師】

はい、それはニミッタです。内から出るニミッタを北伝は使い、外から出るニミッタを南伝は使い、それをまた内に入れるのですが、これ極意になるから、その教科にきて坐れるようになったら教えます。そうでなければ、「私、観た観た」と言っても、坐れないで観たのでは話にならないわけです。これをまた観たようにバーと書いて、さも聖者のように振る舞う人が過去いっぱい出ましたからね。そこはやはりテストしなければいけない。だから、一生懸命、聞き回るわけですよ、ニミッタのことを。私がパオに行けば、「一体、何か何か何か？」と。それで、後で自分がその体験をするかのように振る舞う人もいるわけです。なぜそういうことをするか、全く理解できませんね。

あなたの場合は、バンガーを観て、そのお坊さんが出て手を合わせたということは「法をつかんでください！」ということです。デスマスクというのは「過去の因縁を観てください！自分の過去の生死を観てください！」と。『法華経』も過去の生死を観ない限りは、『法華経』を読めないようになっています。本当に読めないのです。後は空想物語になってしまう、これを外したら。結局これが核心で、お釈迦様が「まず自分の醜い顔、きれいな顔、ダーと現れた」、そのこと。自分のデスマスク。あれはあなたの過去の顔。

だから、そのままね、瞑想を続けて行って、結局、私はここにいないからね、まあ、ただただ坐って、さっき言った瞑想法、北伝でいくか南伝でいくか、どちらか決めないといけないわけです。ゴエンカさんの手法は、半分しか法を持っていないわけなので、それ以上進めないわけです。だから、バンガーでおしまいでしょう。

私の場合、ダンマヌパサナー（法随観）やったから、ズーと進めて行ってしまおう。サンカーラ・ウペッカー（行捨）に、この次に入るのだけれども、サンカーラ・ウペッカーとサンカーラ（行、形成作用）ね、「心」「善心」「不善心」を勉強していなければ、そこ分からない。これがサンカーラに入ったかどうか、まず分からない。だから、ダンマヌパサナーの法を持っていれば、それが続くことになります。

### 【参加者】

ゴエンカさんのところに行って、正直、限界を感じたというか。

### 【水源師】

そう、結局、半分だから。だから、私の場合は、お坊様がサーと出てきて「何だろう？」と思ったら、レディ・サヤドー様だったのです、そのお顔がゴエンカさんの事務所にありましたので、分かりました。それで法を受け取ったのです。

### 【参加者】

それで、禅師の法話で「限界がある」と書いてあってびっくりして、興味を持って。

### 【水源師】

私が間違ったことを言ったら大変ですよ。それは数字とか、そういうテクニカルなところ

は間違ふかもしれませんが、真髓のところは間違つて教えたら大変なことになりますよ！私は。ただし、あなたみたいな方のために私は存在しているわけです。だから、私の弟子が「刀を渡して死ぬ」と言う、仕方がないのですよ、法というのは、ここまですごいことなのですよ。まあ、そのまま楽しくゆっくり坐つて、もう少し続けてみてください。

【参加者】

アーチャン・チャーの本だけが残つて、あと『スッタニパータ』が好きで、すごくかぶつているというか、「同じだな」と。

【水源師】

そう、真髓は一緒なのです。表現の仕方が違うけれど。

【参加者】

一切のものに執着するな？

## 常識・時空を超える仏教

---

【水源師】

そう、執着というけれども、瞑想するという執着がなければ、執着という意味がね、曲解されてしまう。何にも執着しない心になった場合には、もう禅も何もすることないでしょ？何のために？善い方に執着してください！と悪い方に執着するな！というところが残つて、よく、勉強に執着してはダメ！といったら、これは素晴らしい！と（笑）そこ、言葉、結局ね、体験していない文学的なことを解説ばかりしているから、何を言っているか分からなくなってしまう。というのが今、現代になって発生したのではなく、1500年前にこのことをやっていたらしい。今、私たちは本を読んで文献、討議、討議、「これじゃないか」ということばかりやっていたから、ボディダルマが来て、本当の法を教えようと思ったけれど、このすごい靈光というお坊さんが話をすれば、天界から花は咲く、よい香りはする、大地から金の蓮の花が咲いてくるという、その人が怒り狂つてボディダルマの歯を折つたわけです。普通、教えないでしょ？では、この白い雪を赤い雪にして見せてくれたら教えると。最後の慈悲なわけ。というのは、彼は歯を折つたというカルマがあるから、自分の腕を切つて、そのカルマがキャンセルしたわけ。まあ、足を切るか、分からないよ。これを「カルマ」と言います。ボディダルマはすごく慈悲の強い方、観音様といわれるのは、歯を吐かなかつた。飲み込んだ。これで人の衆生の命が救われた、そうでないと、雨が降らなくて、たくさんの人々が餓死します。

有名な話で、お釈迦様がある前世のとき、ヨギでした、非常に高い、すごい行をして、お坊さんではなく、ヒンズーのヨギで、そうしたら、何かのことで腹を立てたらしいですね、そして、この大地に雨を降らせないようにしてみたい。もう怒つて、天界に雨が降つて修行ができない！と。それで7年間、日照り。王様が「これどういうことか」ということで聞い

たら、どここの森にゴータマというヨギが住んで、この人が怒り狂ったから、雨が降らなくなると。雨が降らないと食料がないということ。死んでしまうということ。それで、それは困ったということで、王様がこのヨギに「この行をやめさせる人がいたら、樽一杯の金を与えるから」と言ったら、ある女性が来てね、「はい、行って連れてきます」ということで、そのヨギはずーっと修行しているわけです。全然、雨が降らないのだけれど。昔から男女は完全に別々というブラーミンの世界ですからね。ブラーミンというのは、女性は近づいてはいけないという社会だから。でも、何かお世話するように、少し、少し、少しと。最後には何か仲がよくなって、ゴータマ・ヨギがその女性を自分の上に乗せて、ぐーと宮殿まで来た。それで、雨がその後、降ってきたのです。結局、修行しなくなったから、ぽーんと雨が降ってきたと、お釈迦様は言っています。

そういうふうだね、結局、ボディダルマ様もその後 150 歳で帰ったと、『降臨伝』に書いていますけど、40 年だから 160 歳。私は前にミャンマーに行き分かったことは「いまだにボディダルマ様は生きている」と。1000 年生きる方が、お坊様がいるからね、当然 2000 年は生きるでしょうと。それにまた、六祖 慧能様がお釈迦様の衣を洗っていたわけです。そうしたらボディダルマの使いで、今ここに来ていますと。四川省の方で、インドで修行していたようです。それは六代目だから、200 年後なのですね。死んだはずの方がちゃんと、それから 350 年たって、ちゃんと見ているわけです。観えるわけです。

この衣は、前回もお話ししたように、韓国の霊鷲山、通渡寺にあります。だから、曹溪宗と名乗っているのです。つまり、曹溪というのは六祖大師が生まれた村、曹溪。それで、衣を受け取ったということなのです。だから、時空ということ、私たちは馬鹿にして「あり得ない！」と言うけれども、こういうふうな世界になれば、もうあるわけなのです。よいですか。だから、それだけのこと、この世では間違いだらけの情報で頭をおかしくされているから、アーチャン・チャーは「まず飲めない水の間間違いだらけの情報を捨てて、使えるコップの頭にして、そして、甘露の水、本当の情報をここに入れてください！」と。「世間一般で考える、ぐちゃぐちゃ考える、この知識は皆、毒である！」と言っている。難しいですね！そう簡単に捨てられないでしょ？

40 歳になって、私は初めて「何も知らない」ということが分かったのですよ！私は大馬鹿者で 18 歳のとき、何でも知ると、本に書いてあること、これが正しい、何でも知っている！と。40 歳になって、初めて「私は何一つ知らない人間だ！」ということが分かった。「自分で造り上げたものは何一つない！」と。すべて人の模倣でいって、模倣でお話しして、模倣でつくって、何一つ自分で開発したものはない！と。自分で思っていることは、すべて世の中であって、それ以上の域は出ていないということ。そこを観てください。自分が本当に何でも知っているのだったら、本当に自分で造り上げた知識でも何でもあったら、それは本物。ということは、この世に一切そういうものはないということ。やってみてください。それをずーと観たら進化していきます。いいですか。



## スズメからのメッセージ

---

### 【参加者】

何カ月か前に自分としては不思議な体験がありまして、朝 5 時半くらいにお寺にお経を上げに行こうと歩いていたら、道に雀が死んでいたのです。ちょうどカラオケのお店の目の前で、徹夜で飲み明かした人が出てきて、踏み潰されそうになったので、私が「アー！」と言って取ったのです。それで埋めてあげようと思ったら、まだちょっと温かかったのです。

でも、もう上向いて完全に死んでいるみたいなきもちだったので、まあ、埋めてあげようと思って、手で持って『般若心経』をあげていたら、多分、死んでしまうだろうから、埋めてあげようと思って歩いていたら、途中から涙が出てきて、しばらくは何も思わなかったのですが、涙が止まらなくなると、そうしたら、ひょこっと上を向いていたのが座ったというか、それでも動かなかったのですが、もう少し生きるかもしれないと思って、お寺をやめて自分の家に連れて帰ろうと思ったのです。

それで戻る途中にある小さなお寺で、ここで少しお経をあげてから帰ろうと思って『観音経』をあげていたのです、雀を手に乗せて。それで『観音経』をずーっと読んでいたら、10分、20分くらい読んでいたら、雀が「バサバサバサ！」と飛んでいったのですね！ それで「はっ？」と思って、雀がいなくなったので、「不思議なことだな！」と。「観音様が助けてくれたのかな？」と思って。この話をどういうふうに受け止めたらよいのかと、先生にお聞きしたくて。

### 【水源師】

それはこうなのです。ボディダルマ様が、そうして歯を折られて、ずーっと歩いていた。そうしたら、ちょうどオウムさんがおって、鳥の籠のオウムさんがおって、こう語りかけるわけです。「私はこの籠から出たいのです！」と言ったのです。本当に会話できるのです。

私は亀さんともするし、それからつい最近では亀さんだけでも、遠い昔に小鳥たちが私に話かけてくれて、殺されそうになった小鳥を助けて「皆さんがありがとう！」という会話して毎日、歌ってくれたり、ちゃんと交信できるのです、本当に。特に、私の猫ちゃんとか、ワン子ちゃんはいつも話かけて、言葉を使わなくても、何が欲しいかすぐ分かります。すごいものです。どんどん会話します。「今日はどうだった！」とか「楽しい」とか。全部、話する（笑）。人間と変わらない。ただ人間の言葉で話すだけが話ではない。全然違います。

だから、ボディダルマ様ではツーカーで、もう分かるわけです。言葉ではなく、心と心の会話をするから。それで「そうかそうか！」と。「では、お前ね、天に足を向けて死んだふりをしなさい！ 動かないで！ そしたら籠から出られるから」。ところが、そのオウムさんの主人は、とてもとても愛してかわいがって、いつでも遊んで！ もう自分の子ども以上にオウムさんが大好きだったの。あらあら主人が来るというので、ボディダルマさんの言いつけどおり、これ本当の話ですよ！ パタ！と両足を上げて少しも動かない。それを見たら、おいおいおいおい泣き出してね！ そして「アー！」とパニックになって、手に乗せたら温かいわけ。「おかしいな！」と。おいおいおいおい泣いていた。そして手を広げて、ゆっくりしたら、

パタパタパタ！と飛んでいった。

ということは、こういうふうに「いくら私たちがよい生活して恵まれても、結局こういう社会の籠の鳥である！」と。「飛んで涅槃の世界に行きなさい！」というメッセージ。ということ。これを雀さんが、すごい何か天界から「あなたは善いことばかりしているから、涅槃の世界を目指しなさい！」と。「それには四つの『サティパッターナ』の方法がありますから、どの方法を取るか、これから将来、決めてください！」ということ。あなたもそう言ったらね、結局ゴエンカさんのその手法で最高に行ったら、涅槃に到達します。あなたの場合は「どの手法を取るかは、あなたが決定してください！」「涅槃の世界に行ってください！」というメッセージです。籠の鳥から出ていくと。今回は小鳥さんが来て、観音様かも分かりませんよ！死んだふりして、温かくして『観音経』を唱えたとき、パタパタパタと飛んでいった。というふうに、私たちの世界は摩訶不思議な世界に住んでいますからね。時空もパッ！としたら、他の時空に入ってしまうし。いくらでも、そういう事例がいっぱいあります。まあ、そういうことです。まあよかったですね。

## 名号を称えながら人に尽くす

---

### 【参加者】

先生の瞑想に関するご指導では、ニミッタを出すということを目指しているというか、第一目標にしているかと思うのですが、私はちょっとニミッタが、アナパナサティ（入出息念）が苦手で、呼吸に集中できないので、ニミッタが出ないのです。

それとは別に、それなりに瞑想をやってきて、以前になかった現象が出てきていまして、そのことをお尋ねしようかと思うのですが、昨日カードを頂いたのですが、何というか、スーパーで飲み物を買おうとして、手を出したら動かないので、買えないとか、昨日頂いたカードですね、財布の中に入れていたのですが、家に帰ったので、別なところに置こうとしたら、勝手にシューと入ってしまった、これは？

### 【水源師】

まあ、お守りで「いつも心を仏法の方に向けてください！」と。特に、そこに阿弥陀様が真ん中にありますから、まだ、熱心にできない場合には「名号を称える」と。ただただそれで続けていっても、素晴らしいことです。ただそれにはね、進化するには「人に尽くす」ということが大切です。「自分だけで坐っているのはダメ！」と、はっきり。誰でも。まず基本は「名号を称えながら人に尽くす」ということによってだけ進化します。これは避けて通れない関門です、この修行において。それを忘れればね、「人に尽くす」という愛の心を育てなければ、結局、花が成長しないのですよ、この大地から、この生きている娑婆世界から。つまり、蓮の華がスーと水中の上に出ないです。それは華が出るには「人に尽くすしかない」わけですよ。「人に尽くす」というのは「汚泥のような汚いものを浄化して自分が成長していく」と。ということは「汚泥のようなこの世の中に、いかに尽くしていくか！」ということしかないわけです。ただそれだけのことなのです。それをいくらきれいな砂の中で何したって、

そこに栄養がないから蓮の華は育たないですよ。

## 自分を生かす、そして人も生かす

---

### 【参加者】

最初の頃は、パオ僧院から修行して帰ってきた方を知らないで、マハンで修行してきた方を最初、知ったので、途中から悟りとかいうよりも、仕事ができない理由が自分に現実あったので、自分は何をやったらよいのか？ 心の中を見つめることに着目して、そのとき、たまたまヒーリングの心の奥底みたいなことをやっているうちに、お腹の中で声がするようになってきて、それはまだよいのですが、お腹がグワングワンするようになってきたのです。

それで去年、先生に泣き言で「そういうふうになっちゃいました」と言って、病院に1回だけ行って、だけど、嫌で行かないで、結局、グワングワンするときに何かを考えていると、グワングワンして、それを変えると、少しスーとなるから、瞑想の努力で何とかなるかなと思っていたのですが、どうもその状態がよくならないで、結局1月前から病院通いで。

### 【水源師】

だから、それは簡単に治るのです。それは、こういうことです。「人のため」というのは、お百姓さんが作物を作って、リンゴでも大根でも作るでしょ。それを作って売のだけれど、人はその恩恵によって食べることができるでしょ！これが「人に尽くすこと」なのです。それによって修行ができることです。

それを外してね、キリスト教の方は「サービス」と言います。サービス。ただ、その修行の方法が分からないから、「人に奉仕、奉仕、奉仕」で行くわけです。その中で心を磨いていくわけです。だから、この「奉仕」という過程は、どの宗教界でも避けて通れないこと。それによって、人に分け与えていくことによって、自分が成長していくから。ただ、自分だけが受け取る修行は必ずや破れるし、うまくいかないし、逆に悪い因縁を造ります。

### 【参加者】

今は、あまり瞑想みたいなことをやるよりも？

### 【水源師】

瞑想というのは「坐るだけではない！」と、アーチャン・チャーが言っているでしょ。

### 【参加者】

慈悲の瞑想とか、愛とか。

### 【水源師】

そういうことも一切やめて、ただただ自分の心をクモの巣の中に置いて、それで仕事すれば、それが本当の瞑想だ！と。ただ坐ることが瞑想ではない！と、はっきり言っている。歩

行禅とか、ラベリングとか、それは瞑想ではない！と。悟りの世界はそこにありません。

**【参加者】**

さっき途中だったのですが、お腹のグワングワンしているのが、呼吸よりも強く出ている。

**【水源師】**

それはね、マハシを間違っただけで教えられたから、アンバランスになったから、そうなっています。そこをグーグーとやらせることはね、非常に難しい行で、そこでほとんど潰れてしまいます。その状態だから、一切それは投げ捨てて、まずコップの水は投げ捨てて、一切やったことも忘れて、ゼロから初めて、ただ「まずいかにして自分は役立つか！」ということ。お金を問題にしないで。お金をたくさんもらう、少なくもらう。ただ山奥に入って樵（きこり）をする。何でもよいわけです、それはすべてこの世の中のために役立つことの一員になっているから。

だから、私がある会社に勤めて、私はきれいな服を着てこうしているけれども、その下、縁の下の力持ちの方たちはね、バスの上に上がって汚い服を着てダーとやって、とても尊く観えましたよ。だからね、仕事にはね、上下はないわけです。「仕事をする」ということが大切であって。ただそこで、いじめとかいろいろな風圧があるけれども、そりゃなければ、すべてどんな仕事でも天国。ただ、人間関係が今、私たちが崩れているから、それが地獄であって、仕事自体はどの仕事でも素晴らしいことです！

まあ、そういうふうにして生きていけば問題ないです。おでん屋さんでも何でも。そうして生きていくということは、盗むことではないのだからね。少しのお金で生きていく、それは素晴らしいこと。大きく儲けても素晴らしい。何も盗むわけではないのだから。

「そこが大切！」、これは社会の一員になってクルクルクルクル回しているから、何の問題もない。そして、時間があって坐れば、それは最高だけれど、それだけが瞑想ではない！と言っている。「日常生活即禅」ですから。「日常生活自体が禅である！」と言っている。

**【参加者】**

ちょっと奉仕的なことをやったことがよいということですか？

**【水源師】**

奉仕というよりは「自分を生かす、そして人も生かす！」と。

**【参加者】**

自利ではなく利他というか？

**【水源師】**

自分がはっきりと空を飛んで、大将の鳥に付いて飛んでいけば、それは一員として素晴らしいことである。ところがね、誰も、他の鳥を背負って南まで飛んでいけない！と。その一

員の中で飛んでいくということをまず目指せば、いずれにせよ、共同体でその中で成長して行って、そして自分を磨いていけばよいということです。だから、人から何と思われようと、そこだけがしっかりしていれば、いつの日か必ず華が咲きます。だから、そこで私が何回も言ったように、分からない人から教えられたら、そうなります。マハシでも本当に知っている人は滅多にいないですよ。

**【参加者】**

(頭が) ガンガンしているところに行かないで、あくまでも呼吸のところに行く？

**【水源師】**

そうそう、もう全部捨てて、ゼロから初めて、ただ自然体で、ただボーンと空を眺めてもよいし、川の流れを止めて観るといのは、心が動かない。ただ一点にズーと。そうしたら自分が動いている。必ず動きます。それが「心が止まっている」ということ。難しいことを考えないで。文学も考えないで。ありとあらゆることが詰まっているからね、それ以上いらなと思います (笑)。

## 人を生かすと、自分も生きてくる

---

**【参加者】**

感想なのですが、よく先生が「人のために尽くしなさい」ということを、いつもお話しになりますが、自分はいあまり人に尽くしたことの無い薄情な人間で、どうしようかと思っていたのです。自分は10年くらい営業職をやっています、やはり営業職をやっていると、お客様の立場で考えて、お客様に最適な提案を、どういう商品売るにせよ、そういう形でやっていたので、自分はいあまり営業職には向いていないにもかかわらず、ずっと営業職をやったのですが、それが結果的には修行になっているのかな？と気づきました。

**【水源師】**

そこです。結局、人のため。相手のために誠心誠意やっていると。普通それをやらないで、この製品、あの製品とやったらね、文句が会社に来てクビになっちゃう。逆やってよいのかなど。会社ではお客様に喜ばれるあなたは目玉商品なのです。だからそういうことなのです。人を生かした場合は自分も生きてくる。

**【参加者】**

ただ、自分はい正直あまり、人付き合いもうまくないので、新卒入社したときは、営業は嫌だなと思ったのですが、実際は事務職よりずっと長くやっていたので、これもやはり因縁によって修行をさせられているのかと。

### 【水源師】

そうですね。すべては因縁です。目に見えない深い因縁によって、私たちは生かされています。

## 生駒山という聖地

---

### 【参加者】

金曜日からまた生駒で合宿されるとのことですが、先日「生駒が日本発祥の地」とお話しされていましたが、私は小学校時代、奈良県に住んでおりまして、そんな重要なところだとは。

### 【水源師】

そうだったのです。それをボロボドゥールで発見しました。高野山と京都、京都が金剛界。胎蔵界が高野山。そのゴールデンポイントにそのお寺がある。その和尚さんが「ここは神武天皇が神器を受けた最も聖なるところで、つい近年までは誰も入れなかったところです」。天皇家から守られて。そこに上がったら、大阪が全貌で見えます。



生駒山からの夜景

そこには本当の仏舎利があります。すごい力です。だから「舎利、舎利ある」と言っただけで、分からないけれども、そこは本物の仏舎利。もうお寺も中が金ぴかで、すごいお金をかけている。ただのお寺ではないのです。その和尚さんとお話ししたら「はいどうぞ、使ってください」と。だから法を弘めようとするときには、天界ですぐ分かるのです。

#### 【参加者】

その山で神武天皇が神器を？

#### 【水源師】

そう、九州から攻め上がってきたわけ。大津、大阪、そこから上がっていったから。だから、実は九州の日高の方から上がって、それは韓国の伽耶国という分家で、大和というのは、そこに上がって大和朝廷をつくったわけ。ヤマトタケルの大和。だから、その東海第一道場の伽耶山の近くの高麗山という山にはね、高天原があるみたい。天の高い原。山の上にぼこぼこ。ああ、これ高天原だ。その下に天照大御神とか、ずーとスサノオノミコトたたと書かれて、今の天皇家。ここで、日本で2000年だけど、その3000年前、そこから発祥しているから、実は5000年なのです。だから、その大地は雲が大地から上がってきます。出雲。だから出雲神社なのですね。

なぜ、こういう事態になったかと言えば、現在において。400年前にフランシスコ・ザビエルが来て「東洋の中国、日本、韓国は非常に危険だ！」と。「これが一体になれば、西洋人はやられてしまうから、これをいかにして仲を割って、今のウクライナみたいにやって絶滅させようか」としたけれども、今これだけ力を持っている。

というふうに、歴史を知らないものだから、無明の世界に入っていこうとしている。実は、これは外から入って、やらされているわけなのです。だから「精神界というのは、すべての人を救うことにある」からね。「戦争は止めさせて、お互いに仲良くさせる」のが本命だから。その逆をやれば、どんな宗教でも、それは宗教の道から外れます。神の教えからも外れます。どの神も「人を殺してよい」という宗教は一つもないです。仏法は特に、さっき言ったように、一つも、雀の命でも生かそうとするのが仏法だから。仏国日本がそれをやるわけないでしょ。それをやるということは、外敵からもう目隠しされてやっているということです。

## 法を持つことで、クモの糸が消えていく

---

### 【参加者】

普段、瞑想するとき、「こういうことを考えたら、悪いカルマを造るかもしれない」と考えると、すごく怖くなって、考えないように押さえ付けてしまう。そうすると、かえってワーと広がったり、頭の中に湧いてきてしまって、また怖くなるので、考えないように押さえつけると、また湧いてきてしまって、どうしたら、そういう変な考えとかが、なくせるでしょう？

### 【水源師】

それは、結局「コップの中の水」ということで、アラハトのアーチャン・チャー様がね、「考える」ということは猛毒であると。「考え」、これは恐ろしいことになるから、そういうことは捨てなさい！と。あなた敏感だから、いっぱい考えるでしょ。その「考え」は「一般世間常識においての考え」でしょ。

### 【参加者】

経典とかで、例えば「ブッタの教えを誹謗中傷すると、地獄に墮ちる」とか、そういうことを考えると、すごく怖くて。

### 【水源師】

経典を読めるのは、結局、自分の過去世・未来世をはっきり観たときに、明快に分かることであって、後はあまり気にしないで、経典を読んでもそれくらいなものです。なぜかと言えば、書いている本人もほとんど分からないで書いているわけ。この専門の大学の先生が、そう言っているのだから。書いている本人が分からないのに分かったら、これはおかしいことになる。そういうことだから、あんまり気にしないでください。

普通にね、ただ「嘘をつかずに、正直に、人のために尽くす」と。この三つだけ守れば、何の恐ろしいこと一つもありません。ただ、世間の常識に惑わされて、こういろんなことを考える、これは猛毒だからやめてください！ただ素直に目を開いて、法はどこにでもあります。さっき言ったように、雀さんが「涅槃の世界に行きなさい」というメッセージを送ってくれたわけ。

### 【参加者】

変な考えが湧いてきたときには？

### 【水源師】

まあ、離れること！放っておいて。結局ね、変な考えというのはね、あなたの側で子どもが泣き叫んだり、ジャンピングしたりするわけ。お母ちゃんこれ買ってくれ！買ってけれなきや嫌だ！と、じたばたして大声、出しているわけ。それにつられていくから、おかしくなるけれども。じゃあ、あなた泣き叫びなさい！と、さっさと離れたらいいわけ。そうした



ら、ワーとお母ちゃん！と付いてくるから。そうしたら、車に入ったら、ぼんと家に帰りましょう！と。それでおしまい。まあそういうふな気持ちで。

#### 【参加者】

聖者とか、ミラレパ様とかの悪口とか、考えてはいけないと思うのだけれど、ふっと浮かんできてしまうのです。

#### 【水源師】

それはね、過去世で何かあったかも、言葉が浮かぶということは。普通は言葉も浮かばないで「ああすごいな！」でおしまい。そこで入ってくるということは、何かの因縁があったわけ。でもね、その因縁は「法を持つこと」でスーと消えていく。「法を持つ」ということは、さっきあなたに教えた禅法あるでしょ。あれが本当の「法」。体を使って、呼吸で心を鎮めて、心の眼で、ずーと自分の呼吸を見つめるか、それから考えないで、ただ自分の心を観続けるか、そういうことで消えていきます。まあ、続けてみてください。あんまり考えるのは止めて。浮かんできても、とらわれずに。つまり、子どもが泣き叫んでいるのと一緒だから。それは因縁ということで発生したことであって、それにつられないように。

ただ、それは猛毒であるから、ただ離れること。静かに自分の呼吸を観るとか。自分の心をじーと観ていると。心の巢の真ん中をじーと観ているとか。呼吸もできなければ、できなくてもいいし、ソファでもいいし、寝てもいいし、ただ静かに観、観る。観光の観で、ずーとただそれを観る。オブザーブですね。それを集中とか何か、フォーカス、オブザーブです。ずーと観るということです。それだけのことです。そうすれば、自然にそれが、クモの糸が取れてなくなっていくます。

### 自分に合った瞑想を続ける

---

#### 【参加者】

今日ですね、歯の裏の舌を付けて呼吸をするということをやって、かなり体がポカポカして、気持ちよい状態でした。今まではアナパナみたいなことをして、自分に合う瞑想が時期的に？

#### 【水源師】

そうですね、そうしたら、それをずーと続けてください。ずーと続けて、まず考えない、公案とかそういうこともしない。ただ、お腹が膨れた、縮んだ、それも考えない。ただただ坐っている。すーと。10分でも15分でも30分でも。それだけで結構。それをずーといけば、なんかひらめきが出てくる。「あー！こうか！こうか！」、これが悟りです。それで成長していきますから。

【参加者】

体がポカポカして、今年4月頃、心筋梗塞して、まだ少し私自身にあまり構ってやれなくて、体がポカポカして気持ちいいので。

【水源師】

ちょうどチャクラのエネルギーが回っているのですね。きれいに、それで温かくなって、それは素晴らしいこと。

【参加者】

家でやると、瞑想しても15分くらいしか続かないのです。

【水源師】

それでよいですよ。

【参加者】

変な雑念はないのですが、何かソワソワするのは、そのときも、常に自分は瞑想しているという感覚しかない、瞑想している自分しか、要するに自我しか見えないのですね

【水源師】

だから、そこから離れることですね。自分というのはないのですから、そこで、お腹の膨らみ縮みか、つまり、数観息で一つという呼吸の長さを数えていくとか、いろんな手法で目をそっちの方に向けるわけ。そうしたら、それをずーとやっていったら、自然とソワソワとか、そういうのは消えていきます。それを平安にすることによって、一番大切なことは、死の直前にね、それをしなかった場合には、このソワソワが出てきてね、行きたいと思ったところに行けなくなるわけ。

【参加者】

この少しやり方を変えて？

【水源師】

そうです。だから一旦、変えたら、すぐ戻らないで、しばらく続けてみてください。こう変えてしまったらね、せっかくよいものが、またダメになります。

## 色の好き嫌い

---

【参加者】

私は火とか赤いものが苦手で、それが人間関係にも関連してくるのでしょうか。

### 【水源師】

まあ、それはあまりないと思うけど。「赤が嫌だ」とか「ピンクが大好きだ」とか、それは性格だから、あまり気に留めずに。「私はブルーが大好きで、他の色は大嫌いだ」とか、私も昔はそう思っていたけど、今は何の色でも大好きになってきて、とらわれなくなりました。よいですか。

## 体験者だけが分かる

---

### 【参加者】

1年くらい前に、仕事のことで悩み事があって、本屋で見つけた禅の本とかを読んで、すばらしさに気づいて、それから坐禅とかをやるようになって、坐禅の中では、先ほど先生がおっしゃった「数を数える」ということを1日1回はやるような形で、1年くらいは続けているのですが、集中していくことで三昧になるというのですか、数えることと一体になるという感覚ができてきているように思うのですが、よく「集中しちゃうと、周りが見えなくなってくるのがよくない」とか「体の感覚も含めて、気づきがないといけない」とか、いろいろな本とかを読むと。

### 【水源師】

それは嘘、その人は深く体験していない。もっと深く、迷っています、書いている方が。見えなくなるのが正解。そのまま続けたらよい。自分で長年・何十年やって「これがいけない」というところの根拠を示さないといけないけれども、ただ「それはいけない！」と。この人が言いたかったのは「気づく」ということだけれども、その「気づく」というのは、ここで気づくことであって、ここではないわけです。そうしたらね、この人はここではなく、ここなのです。感覚だから。もう感覚を超えた域に、本当の信念があるわけです。だから、私は「嘘だ」と言うわけ。

だから、体験者だけが書ける本というのはないのです。書かない。なぜなら真似るから。実際にこういうところでお話しして、また法話で私は書きますけど。一旦、私が法話で書けば、それをいくら真似ても結構。それは問題ない。ただ、そこ以上のことをするには、どうしてもまたここに来なければいけないから。ただそれはそれでよいのです。

ただ、それを超えて、チッタヌパサナー（心随観）とヴェーダヌパサナー（受随観）を混ぜてしまっているわけです。心でやりながら、感覚というのは、感覚はゴエンカさんのヴェーダヌパサナー。それでおかしくなってしまう。それでそういうことはできない。それで体験者だけが分かる領域なのです。ということの本で書いているから、おかしくなると、今度、討議に入って「こうじゃない！ああじゃない！」と。的がボーンと逸れて、一旦、逸れてしまうと、大変なことになってしまう。よいところまで行っているのに。

## パウオンに位置する生駒のお寺

---

### 【参加者】

この間、生駒山が重要な場所ということについて、伺いたいです。

### 【水源師】

それはですね、今から 1200 年前ですね。1200 年前に、弘法大師様が法を持ってきたときに、それを見て、ナーガールジュナ様（龍樹菩薩）が他界したわけです。第一弟子の方、第二弟子の方、建設した世界最大の遺跡です、インドネシアに。ダライ・ラマ様がチベットに法を持ってくる 200 年前に、もう日本に着いていたわけです。その後、今から 1000 年前に、そこからチベットに上がって、今のチベット仏教をつくった方が、何とかリンポチェで、そこで 10 年か 14 年か修行したみたいです。

だから、ナーガールジュナ様という方は、非常に大変な大乘の仏教の最高位にあたる方で、その人の構築したことは、その四つの火山のエネルギーを使って、つまり、身心一体で、この物体と心は一体になっていますからね、そこに行けば、非常にポテンシャルが上がってしまう。そこには、弘法大師様が持ってきた胎蔵界・金剛界と二つあるでしょ。その立体曼荼羅がそこに構築されて、その間の護摩座もあるわけです。その護摩座というのが、そこに行ったら法をやったときに解明したわけなのです。

なぜ、それが非常に重要かと言ったら、そのパウオンに行ったら頭を付けたときに、エジプトとかクスクスに行ったら、よく分かりますけどもね、岩が空間になっているわけなのです。これも同じ現象を起こしてしまう。だから、太古の叡智がそこに詰まって、そのポイントがね、赤不動・青不動という暗号があるわけ。京都は青不動。高野山が赤不動。そのゴールデンポイントに、絶対にお寺があるはずだ、ということで探させたら、そこであって、そこが日本発祥の地だったわけ。ということを経緯で発見したわけです。

### 【参加者】

仏舎利もそこに祀られていると？

### 【水源師】

そこにあります。行ったらすぐ分かります。全然エネルギー帯が違います。そこは最高の聖地で、普通は入れないところです。

### 【参加者】

知人が生駒山の側に住んでいて、生駒山は昭和の初期まで行者さんの修行の場だったらしいですね。それで、お参りに連れていかれて、やっぱりエネルギーの場の雰囲気は全然違うようです。

### 【水源師】

という、すごい因縁のところに皆さんを連れて行って瞑想すると、これ以上ない、普通は、あそこは天皇家しか入れない、天皇でも入れない聖地だったのです。それが今では運よく忘れ去られて、弘法大師様がそこで護摩焚きもやったし、大変なところなのです。ただ、知られないから、私が行けるところで、これがワーと知られたら、私は絶対に入れない聖域。ワーと結界を張られて、大変なことになるでしょう。



生駒のお寺

## 三十四善心

---

### 【参加者】

心を常に穏やかに、善心所を？

### 【水源師】

それはヴィパッサナー（観）のもう最終段階だから、それは考えない！ただ、心が平安で気持ちがよかったら、それは三十四善心です。ふらふらふらしたら、不善心が発生しているから、自然と静かになれば、それでも大成功。それをずーと保っていけば、三十四善心で、三十四善心は般若（パニャー、智慧）が入っているわけ。叡智の心が。それが発生して、そこが強くなれば、パッと！分かるわけ。あー！それで「正覚」「目が開く」「覚」「覚醒」「酔いから目が覚める」「浅き夢見し、今日も酔いもせず」という、そこなのです。ただ、簡単なことだけでも、難しく考えるから、おかしくなってしまう。

## 印の組み方

---

### 【参加者】

禅のやり方で、手は特に、場合によっては、こういうふうに積み重ねるとか。

### 【水源師】

そうですね、普通はこうしますが、こういうふうに。ところが、これは何か阿弥陀様の印とか、密教関係では、こういうふうにして印を結ばせるとか、エネルギー体系で、私はなぜかこの型が大好きで、5時間、6時間やるときは、これでやってしまいますけれど、普通の正式なやり方はこれですね。エネルギーがグーと回るように。安定すればよいです。ただ、こうして乗せてもよいし。あんまり気にしなくてよいです。お坊さんはこういうときもありますし、こうするときもありますし、一番、自分にすんなり来るエネルギーの回り方によって、やればよいです。

### 【参加者】

あと、舌を上唇に付けるというのは？

### 【水源師】

さっき言ったようにね、お腹が安定するわけ。

### 【参加者】

自然に舌が上がって、付いている程度でも？

【水源師】

そうです。軽く付ける程度で、付くか付かないか程度でもよいし、無理にすることはないです。

【参加者】

日本の仏像で、こうではなくて、こういう印の仏像があるのですが。

【水源師】

それは密教です。

【参加者】

この印で坐っていて気持ちがよいときは、これでもよいのですか。

【水源師】

もちろん結構です。私が護摩焚きやったときは、それでやりました。全然問題ありません。

## チャクラ

---

【参加者】

「チャクラの詰まり」というのは、どういう原因で起きますか。

【水源師】

「チャクラの詰まり」というのは、いろいろな現象で起きます。変なものを食べて一時的にお腹を壊したと、そうしたらチャクラがこもっています。大きく心臓の病気をして、このチャクラのエネルギーが流れないとか、だから普段からエネルギーを回せばね、そういう病気も皆、消えてしまうのです。そういう呼吸法の体を直す呼吸法もあります。

【参加者】

瞑想で背骨を鍛えることでもチャクラは。

【水源師】

そうです。流れやすいです。でもあまり気にしなくても、健康体であれば、必ず流れます。ユダヤ教で今は瞑想する人がいないから、空の世界はあるみたいだけど、空自体は体験できないみたいです。だから、空の話をしてびっくりしてしまって、実際はこうなっています。実は私たちの奥義の奥義の秘伝はそうなっていますと。びっくりした。

## 夢の世界

---

### 【参加者】

「夢で観たこと」というのは、自分自身にすべて影響があるのですか。

### 【水源師】

そうではなく、私はずーと起きながら、夢を観るのは大好きですが（笑）、寝ないのです、普通は。ずーと起きて続けて観るのです。寝ているのだけでも、いびきかいて寝ているようなのですが、実はそこで私は観ているわけなのです。激しく働いたときは次の段階、一晩中、頭が起きています。寝ているけれども。前はそういうふうに自分の夢をずーと観続けることが大好きでね。「あらこうしている！ああしている！」とか、「あーなんだ、これは危険だ！こっちに行こう」とか、ずーと何をしているか観るわけ。それがね、そのうち夢の中で遊んでいたらね、もう夢が出なくなっちゃうのです。観ることがめったになくなる。でも、ずーと普段、中で起きているわけ、じーと。あの、クモの巣のクモさんみたいに、じーと。出てこない！なかなかキャッチできない。それで自分の心の状態が分かるわけ。バロメーター。

### 【参加者】

夢の中で、じっと観察というか、夢を意識して観るということをしてよいのですか。

### 【水源師】

もちろん！ それ最高です。夢というのはコントロールできないでしょ？ それでコントロールできるのですよ！ 夢の中で盗みたくないけども、夢の中でやってしまって、覚えていてとっても気持ち悪いでしょ！ それを盗まないで、すっと去るでしょ。覚めた後、「あー気持ちよかった！」となるわけです。カルマが一つ消えていくわけです。

### 【参加者】

夢で、たまに夢を観ているときに、今、夢を観ていることに気づくときがあつて。

### 【水源師】

そうそう！ そこにいるわけ！ じーと。それ最高の瞑想状態。そうすると、夢がポッ！と切り替わっちゃう！ そうなのです！ 逃げちゃうのですよ！ 自分でコントロールというか？ それは心の奥底の阿頼耶識（アーラヤ識）のところから出てくるものだから。あの、すごいのですよ！ だから、クモさんみたいにじーとして、キャッチするわけ。自分の今の状態が、どうあるか分かる。

### 【参加者】

そのときに、なぜか夢の中で空を飛びたがるのです（笑）。



**【水源師】**

飛んだらよいですよ！（笑）ずーと飛んで、あっちこっち。ただしね、これが間違っただけで教えられる、そういう状態をつくったら、本当にアストラルボディ（アストラル体）で飛んで行って、変なところに行っちゃう。それで、あっちこっちに行って、何かすごい体験してきたと、そのうちにポッ！と、他のそういう精神界の世界の生き物にキャッチされる。だから、そこで、いつでもお釈迦様とか、そういう菩薩を心にして行けば「やめなさい！」と、ちゃんと出てくるから大丈夫。それだけ仏教というのは、素晴らしい。

でも、西洋ではそれがはやって、あっちこっち！ あーすごい体験だ！ とても危険なものです。一旦入ったら、もう出られないから。夜な夜な苦しめられるからね！ 牢獄に入ったように。何か変なものに捕まりそうになったら、お釈迦様のことを考えれば！ まあ、いつでもお釈迦様と一体にいれば（笑）、そりゃいいよ、「観音様助けてください！」と、すっと出てくるから！ それがなかなか出ないの！ そういうときは出ないようにしているわけ、見えても。すごいトリック！ その精神界、テレビのなんて言うか、TV ゲームなんてものではないのですよ。想像を絶する、すごく精巧にできているから。だから、下手に心をいじってはダメなのです。

**【参加者】**

夢なのですが、私は夢日記を付けているのですが、やはり何か、付けてみますと、どこか日常世界とは違った奇妙なところがありまして。

**【水源師】**

あります！ そこです。

**【参加者】**

ただ、夢の中では奇妙だと、気がつかなくて！ 起きてから気がつくのですが。

**【水源師】**

そのときにね、奇妙な世界にいるな！ という状態まで行かなければダメ！

**【参加者】**

それは、でも後から考えてみますと、夢の中で奇妙なものが出てきて。それは自分が気づけ！ 夢なのだから気づよ！ というふうに。

**【水源師】**

そうではなく、その世界にいるわけなのです。その世界でね、その生命体が、あなたが、あなたは透明なわけ。その人はあなたの存在に気がつかないけれども、気がついて、パッ！ と取られたら、大変なことになります。本当にそうなの。だから、そこでね、守護神とかエンジェルとか一緒にガイドしてくれるわけ。ガイダーという。それにガイドしてもらえば、

まず間違いなく、安全にそういう世界を見て回れます。でも、それはね、興味本位でしょ。修行するときは、あんまりそういうことは関係ないのですが、私はなぜそれを知っているかと言ったら、いろんな世界で自分を試してみて「一体、真理とは何か」という過程のうえで体験したことであるから、回答できるわけなのです。ただ、私はそういう世界に飛んでいきたいとは思わない。ただ「ここで法をできるだけ得て、皆さんと一緒に分かち合えればよい」というだけのことです。

**【司会者】**

それでは先生と一緒に『慈経』を読みたいと思います。

『慈経』読経（日本語訳とパーリ語）

---

# 水源禪師法話集 31

(2014年9月23日 東京法話会)

---

2015年9月1日 発行

編集兼発行 一乗会